

自然観察 NOW

NO. 74

野幌森林公園 自然情報

発行：2023年10月5日

北海道ボランティア・レンジャー協議会

ホームページ <https://voluran.com/>



季節の花、アケボノソウが「二年草」って？

野幌の森では、折から”アケボノソウ”が楽しめる頃。しかし、4年振りのヒグマ出没で、道庁から「ヒグマ注意報」が発令(8/18～)され、立ち入り自粛要請が。更に10/17まで延長の非常事態です!! このため、9/9の「秋の花でにぎわう森を歩こう」に続き、本日10/5の「秋の森観察会」も中止に一。

さて、夏から秋にかけての森歩きで、嬉しい季節の花、その代表格が”アケボノソウ”ではないでしょうか。
→アケボノソウ「曙草」は、リンドウ科の”二年草”です。
山地の水辺に生える。高さ0.3～1m。葉は長卵形で先端尖り、三本の主脈をもつ。夏から秋にかけ、先端に白色の星形の花を開く。花冠の各裂片に緑色の二点と紫黒色の細点とがある。(広辞苑から)

名前の由来は、白い花びらを、夜が明けはじめた空になぞらえ、花びらの斑点をその空に残る星に見たてたもの。ロマンチックですね。

斑紋は”蜜腺”で、多くの昆虫が訪れて受粉がすすみます。



アケボノソウに集うアリの仲間とヒメヒラタアブ

アケボノソウの四季「フォト・ギャラリー」



初年：ロゼット状に葉を広げる



翌春：生命力あふれる芽吹き



夏：つぼみをつけ順調に生長



夏～秋：開花も間近



曙草たる所以／感動的な花



昆虫を介し受粉・結実



晩秋：完熟の果実

アケボノソウが”二年草”を契機に、次ページでは、野幌の主な一年草、二年草をみてみましょう。

○ 一年草

種子から発芽・生育し、開花・結実して種子を残し枯死するまでのサイクルが1年以内に完了するものを「一年草」、「一年生植物」といいます。一般的に、多くの一年生植物が春～秋の「夏型一年草」ですが、秋に発芽して越冬し翌年に枯れる「冬型一年草」、「越年草」もあります。

野幌の森では、次のような一年生の植物たちが観察できます。



キツリフネ



ツリフネソウ



ミゾソバ



イシミカワ 果実



ナギナタコウジュ



エノコグサ(左)とキンエノコロ



ツクサ



コハコベ：越年草

注；エノコグサは、野幌の森「植物調査」で近年、未確認種に。撮影地；近郊を参考掲載

○ 二年草

秋または春に発芽し、2年から数年目に開花・結実して植物全体が枯死するものを「二年草」、「二年生植物」といいます。ヤブタバコ、ビロードモウズイカ、野幌の森では、次のような二年生の植物たちが観察できます。



クサノオウ



タネツケバナ



アレチマツヨイグサ



フデリンドウ



オニルリソウ



同左 果実



同上初年：ロゼット状



ムラサキケマン

○ 多年草（紙幅の関係で、詳細は割愛します）

冬季や乾季がある地域でも枯死せず2年以上生存し、2回以上（基本的には毎年）開花・結実するものを「多年草」といい、多くの植物やシダ類などがこれに該当します。

多年草の中には、通年葉をつけたままの「常緑性多年草」や、厳冬期など生育に適さない時期に地上部の葉や茎が枯れ落ちて、地下茎や根などが休眠状態で残り、翌年にはそこから再び茎や葉を伸ばす「宿根草」、さらには、植物体は多年にわたって生存するが、一度開花・結実すると枯死してしまう「1回結実(繁殖)型多年草」エンレイソウ、バイケイソウ、オオウバユリなどの10年選手もー。

文責：藤吉 功

◆今後の観察会の予定 * 印；自然ふれあい交流館とボラレンの共催～要：事前申込み
 10月15日(日) 10：00ー 晩秋の森観察会 野幌森林公園、大沢口駐車場集合
 11月4日(土) 9：50ー 秋のありがとう観察会 * 野幌森林公園、自然ふれあい交流館集合